

第3ステージ「重点的取組等の総花的な設定例」(中津教育参考資料)

「知」「徳」「体」、または新大分スタンダード等の「指導法」を重点目標ごとに位置付け、取組指標と合わせた総花的な設定例です。  
※各校で重点的取組を設定する際は、3つ程度に焦点化します。

別添資料4

学校の教育目標：地球の未来に貢献するため、未知の課題に対し創造的・協働的に解決をしていく子どもの育成

育成を目指す資質・能力：他者と協力する態度・未来像を予測して計画を立てる力

| 重点目標                   | 達成指標   | 重点的取組<br>(○=知、●=体、▲=徳)【 <u>学び方</u> ・ <u>新大分SD</u> ・ <u>生徒指導3機能</u> ・ <u>キャリア教育</u> 】   | 取組指標<br>(誰が、何を、どのくらいの頻度で)  |
|------------------------|--|--|--|
| 生きて働く知識及び技能、学習・生活習慣の習得 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 単元テストの全教科で平均80点以上</li> <li>● 重点的体力調査項目で前学期より60%以上の児童が上昇</li> <li>▲ 「みんなを意識して(のために)行動することができる」のA回答児童70%以上</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 基礎基本の補充(学習)</li> <li>○ <u>既習を活用した主体的な学びの推進</u></li> <li>○ 「新大分SD」①1時間完結型②板書の構造化③習熟の程度に応じた指導の推進</li> <li>○ <u>生徒指導の3機能(自己決定の場)を位置付けた授業展開</u></li> <li>○ <u>自己理解・自己管理能力・課題対応能力の育成</u></li> <li>● 一校一実践での体力向上</li> <li>▲ 学習・生活習慣の確立(共感的人間関係・時間・あいさつ言葉遣い等)</li> <li>▲ 道徳の重点内容項目の理解</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 補充指導を学年部で週2回行う。</li> <li>○ <u>既習内容を位置付け、関連させた課題提示の授業を1日2回行う</u></li> <li>○ <u>1日に1回は構造的な板書写真を撮りため、月一板書を職員室に掲示する</u></li> <li>○ <u>1日3回は自己決定した内容をノート等に書かせる(書けない児童への支援策も準備)</u></li> <li>○ <u>既習事項を生かして課題を分析し、解決に向けた見通しを持たせる授業展開を1日1回行う</u></li> <li>● 全職員参加して一校一実践(サーキット)を行い、重点種目の成果を可視化する</li> <li>▲ 時間を意識した行動ができるよう教員が3分前に場所に行く</li> <li>▲ 月に1回重点内容項目にそった授業を実施し、学期に1回互見授業を行う</li> </ul>  |
|                        |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 家庭学習の徹底</li> <li>○ 親子読書の推進</li> <li>● 生活習慣の確立</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 宿題をしたか声かけをする(親子自学の取組推進)</li> <li>○ 家庭読書の時間を確保し、読書に親しませる</li> <li>● 毎日朝ご飯を食べさせる(決まった時間に就寝・起床)</li> </ul>   |
|                        |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習支援</li> <li>○ 読み聞かせの推進</li> <li>▲ 安心・安全支援</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「〇小タイム」における丸付けを支援する</li> <li>○ 週に1回読み聞かせを行う</li> <li>▲ 登下校や校外学習の見守りを行う</li> </ul>   |
| 多様な考えを受け入れる協働性の向上      | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 単元テストの「思考力・判断力・表現力」の観点で正答率70%以上</li> <li>○▲「<u>自他の意見を交流することができる</u>」のA回答70%以上</li> </ul>                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各教科の見方・考え方を生かした授業展開</li> <li>○ <u>ペア・グループを活用した対話的な学びの推進</u></li> <li>○ 「新大分SD」生徒指導の3機能を意識した問題解決的な展開の推進</li> <li>○ <u>生徒指導の3機能(自己存在感)を位置付けた授業展開</u></li> <li>○ <u>人間関係形成・社会形成能力の育成</u></li> <li>● 縦割り班でアドバイスし大縄回数向上</li> <li>▲ 「〇〇の木」の気づき・評価を生かし道徳的諸価値の理解を深める</li> <li>▲ SGE(構造的グループエンカウンター)による親和性の向上</li> <li>▲ 児童が「<u>考え・議論する道徳</u>」授業の推進</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各教科の見方・考え方を生かした授業を単元に1回実施する(校内研と合わせた教科の深化)</li> <li>○ <u>自己決定した内容をペア・グループで協議し、納得解を創造する授業を1日1回行う</u></li> <li>○ <u>単元の中で1回は問題解決的な展開の授業を実施する(効果的取組の深化)</u></li> <li>○ <u>自己決定した内容をペア・グループで交流し、多面的・多角的な視点で納得解を探る授業の実施(効果的取組の深化)</u></li> <li>○ <u>他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝える授業1日1回行う</u></li> <li>● 縦割り班での目標を設定し、達成のためのアイデアを出し合い実践させる</li> <li>▲ 「〇〇の木」の気づきを書かせ、週1回の集会で気づきの評価をするとともに深化を図る</li> <li>▲ 週に1回SGEを実施し、自己理解・他者理解・自己受容・信頼体験を高める</li> <li>▲ 児童が自己との関わりで多面的・多角的に考え、議論する道徳の互見授業を学期に1回行う</li> </ul> |
|                        |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>▲ 「あいさつ+1(会話)」の推進</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>▲ 学期に数回の見回り活動の際、「あいさつ+1(会話)」を行う</li> </ul>  |
|                        |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>▲ 「あいさつ+1(会話)」の推進</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>▲ 学期に数回の見回り活動の際、「あいさつ+1(会話)」を行う</li> </ul>  |
| 創造力の向上                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○▲「<u>学んだことを生活に生かすこと</u>できている」のA回答60%以上</li> <li>▲ 「<u>自分は家庭・地域のために貢献できている</u>」のA回答60%以上</li> </ul>                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生活科・総合的な学習の時間を中心に社会貢献を推進</li> <li>○ <u>深い学びにつながる授業の創造</u></li> <li>○ <u>キャリアプランニング能力の育成</u></li> <li>▲ 学校行事や児童会活動を通した生活づくりの参画</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ <u>身近な社会との関わりの中から課題を発見させ、協働的に解決させることで社会貢献を実感する単元を学期に1回は設定する</u></li> <li>▲ 学級・学校の課題を見つけ、解決方法を合意形成し実践・振り返りを月に2回行う</li> </ul>   |
|                        |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>▲ 家庭の一員として責任を持たせた手伝いの推進</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>▲ 一人一手伝いを話し合いによって決め、毎日実行させる</li> </ul>  |
|                        |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域の伝統文化や環境についてよさや課題を伝える</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 単元に応じたゲストティーチャー活動を行う</li> </ul>   |

生きて働く知識及び技能、学習・生活習慣の習得

未知の状況にも対応できる思考力、判断力、表現力等の育成

学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力、人間性等の涵養